

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

「生産現場と国政の架け橋になる」
【組合員、役職員の一致団結を】

「衆議院解散、衆参ダブル選挙はあ
るのか」とこへ行っても会期末解散の
話題になりました。解散権は内閣総理
大臣のみの専権事項。国会対策委員
会においても、解散風を強く感じるこ
もありましたし、報道に落ち着かない
日々を過ごすこともありました。まさ
に安倍総理のみぞ知るといふ世界を感
じました。

一方、参議院は選挙に向けて走り続
けました。山田とお先生も全国への
訪問を続けています。

自民党では参議院議員に向けて「政
策パンフレット」を作成しました。6
月17日に公表した「J・ファイル」では、
10ページにわたり農林水産業の振興に
ついて記述されています。特に、「生
産者の努力が報われる」という言葉か
ら始まるのは農林水産施策の展開。J
A自己改革の実践に加え、生産現場の
課題となっている労働力不足、GAP
取得や輸出体制の整備などへの後押し
も大変重要です。

今回の参議院議員選挙は、政府が進
めてきたこれまでの農協改革に対して
現場の意思が問われているのではない
でしょうか。私も国会の合間を縫って
多くの地域にお邪魔しています。

地域農業のために組合員、役職員が
一致団結し、頑張りましょう。

「和牛遺伝資源を守るために全力」

私が政策立案に携わった出来事を紹
介します。自民党では、先の和牛受精
卵の海外持出事件を受けて、党内に「和
牛遺伝資源の流出等に関する専門検討
プロジェクトチーム」を設置し、議論
を重ねてきました。畜産・酪農対策委
員会の委員でもある私もチームに加え
ていただき、これまでの畜産経営の知
見を党の提言に反映していただきまし
た。わが国固有の財産である和牛を守
るため、関係団体と連携を強化するこ
とも、法改正を含めて制度を見直し、
畜産経営の発展に取り組みます。



▲自民党和牛遺伝資源流出等専門検討PTで吉川大臣に要請

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「米の二買した政策の確立に向けて」
知見を結集させよう

日本の米取引に関して、先物市場
の扱いについて継続か、廃止かが議
論となっていますが、いたずらな期
待をおおる危険性がある一方で、需
要に基づく価格形成への指標を求め
る声もあります。いずれも簡単では
ありません。

土地利用、作目の動向、需給変動、
輸出入、備蓄、生産と流通の担い手
像、他の作物との関係等々、改めて、
歴史を振り返りつつ、また、作物の
取り組み等々を検証しつつ、早急な
詰めが必要です。

私の問題意識は、近年の米の生産・
流通・販売、そして価格形成につい
て、「一貫した政策が確立されてい
ない」のではないのかという疑問で
す。

これまでの生産数量目標の配分を
止め、生産者の自覚にゆだね、作柄
等による県ごとの目標を示しつつ
も、需給は、その動向をみて、備蓄
や飼料用米への仕向け等を考える。
しかし、価格形成は、相対なり、業
者間の取引に任せるといふやり方で
本当に定着できるのかどうか。こう
した中で、取引業者等の種々の甘言

や奸計により損失を被っている生産者
やJA等が存在するのは常であり、こ
の点を何とか透明性と、当事者間の納
得性が確保されるべきです。

これらについてきちんと関係者が知
恵を出して、試行錯誤を繰り返しつつ
も、可能な限り納得できる安定した価
格形成を実現する仕組みが講じられる
べきであり、その議論を進めるため
も、農水省や関係団体、学者も加えた
検討会を行うべきと考えています。

かつて約10年間、実施した自主流通
米価格形成センターはなくなっており、
JAが一喜一憂の苦勞を行っていた
るなか、「米の生産・流通・販売は、
こうした形でしっかり対応するのだ」
という大きなルールのようなものが、
あるようでない。皆、何となく不安と
不満を持たれています。

国も備蓄買い入れや飼料用米など、
主食用以外への流通や需給安定を目標
とした「キャバパン」等による説得・働
きかけ、そして、それでも価格が下がっ
た場合の、一定の補填を行うナラシ制
度の運営を行っています。今こそ、
内外の知見を得て、整理してみるべき
です。少なくとも日本経済調査協会の
報告のような乱暴な提言をさせて、
混乱させてはならないし、米生産者や
JA等が安心して生産に勤しめる信頼
を実現しなければなりません。

引き続き、党の農林の政策責任者と
して、万全の政策立案に全力をあげて
まいります。